

## 5-6 (13)

CD20 陽性で  $t(11;14)(q13;q32)$  を有する多発性骨髓腫細胞は小型で予後がよいのか？

松田 功、森 有紀、中川靖章、澤登雅一、植村直樹、鈴木憲史

日本赤十字社医療センター血液内科

CD20 陽性の多発性骨髓腫で小型細胞がみられ、 $t(11;14)$  を有している症例では予後が良好との報告がある (Blood 102:1070;2003)。 [方法並びに結果] 1996年から2003年までの当院での138例の染色体分析結果で再検討した。138例のG-バンド法染色体分析で  $t(11;14)$  を有する症例は6例 (4.3%: IgG型3例、IgA型2例、BJ型1例、すべて a、59-87歳) で、敗血症で早期死亡した2例を除くと26、36ヶ月で現病死、65ヶ月現在生存2名とステージの割に経過良好であった。

なお、2000年以降は一般細胞表面マーカー検査 (MM セット) から外されているが、CD20 抗原陽性率20%以上の症例を再検索すると、47例中8例 (17%) に認められ、14年間生存中の症例もみられる。その内、少なくとも2例でCD20 陽性・ $t(11;14)$  症例が認められた (ほかにはFISHで解析予定)。 [考察] 多施設共同でCD20 陽性・ $t(11;14)$  症例を集め更なる予後の改善を目指したリツキシマブ+CHOP 療法の治験で検討する必要がある。

Key words ;  $t(11;14)$  , CD20 , 予後